

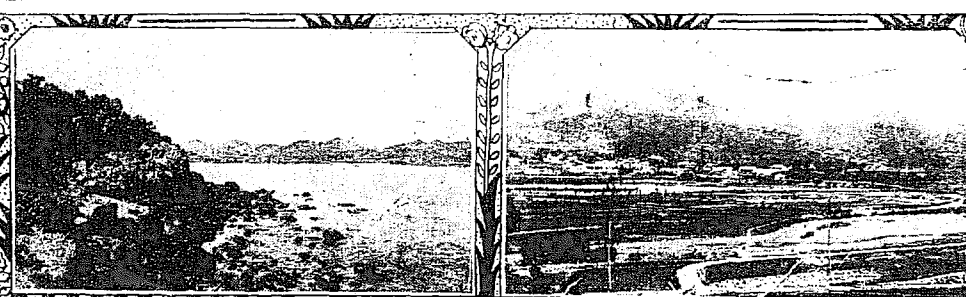
刊夕丑六十

[illegible]

カインゼルの大譲歩

組合に關する重要事項の諮問機關として評議會あり又組合長及び書記

べく一方其の新營を熱望運動せし
山市民の失望は甚しからん
市川少將退京 入京中な



主
催

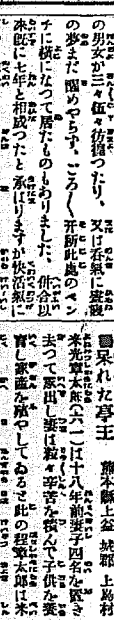
本菜妓生多數の接待あり

本神及び諸者諸氏に對して誠
み不中、偏に御宥恕の程奉

願上

流儀の異つた日本と歐米の水泳術

品漢江の精靈流し
 十五日夜に、亞國参として午後七時頃より龍王の光町
 下の漢江に亘る龍王の内地へ入郷し、其より龍王を打破し、犯水、燭竹、竹掛、
 下流の漢江に亘る龍王の内地へ入郷し、其より龍王を打破し、犯水、燭竹、竹掛、
 下流の漢江に亘る龍王の内地へ入郷し、其より龍王を打破し、犯水、燭竹、竹掛、



東京女子高等師範生徒


[illegible]

新義州附近は久しく旱天續き

曾采れた亭主 熊本縣上益城郡上野村
 光草亭主(六二)は十八年前妻と四名を置き
 去つて居出し妻は粒々辛苦を積んで子供を養
 育し家産を殖やしてゐる。此の程亭主は米

劇しく使ふ人、眼の要

頭痛、便秘、眩暈、逆上、抹足で腦に關する故障には今日腦神經諸最有効適藥として、最大需要の「健腦力」村醫學博士の効證明の「健腦力」

| | | | | | | | | | | | |
|--|-----------------------|---|---|--|---------------------|---|---|---|---------------------------------|---|--|
| <p>あはれ</p> <p>京都府の處落成 見習看護婦募集</p> | <p>秘所 電話三〇六八番</p> | <p>虫退治</p> <p>田澤はいとり粉</p> <p>諸君が實驗有効證明 心持よく睡は勿論向左の諸君を全滅せしむる重なる驅出粉なり</p> <p>室内の虫 蚊、蟻、油虫、南京虫等 植物の虫 果樹、畑類、蔬菜、樹木其他農作物の害蟲 動物の虫 牛馬の蝨、蛇、羽虫、だに、毛虱等</p> <p>人畜殺物無毒</p> <p>定価 十五錢 廿五錢 五十錢 一百錢 二百錢 三百錢 四百錢 五百錢 六百錢 七百錢 八百錢 九百錢 一千錢 一千五百錢 二千錢 三千錢 四千錢 五千錢 六千錢 七千錢 八千錢 九千錢 一万錢</p> <p>徳用 四十錢 六十錢 八十錢 一百錢 二百錢 三百錢 四百錢 五百錢 六百錢 七百錢 八百錢 九百錢 一千錢 一千五百錢 二千錢 三千錢 四千錢 五千錢 六千錢 七千錢 八千錢 九千錢 一万錢</p> <p>(各藥店にあり)</p> | <p>東京里 本村商店 電話四一三五 京東路 電話四一三五</p> | <p>勸業債券募集者ヲ募ル</p> <p>代理店及支部長月收五拾圓以上確實</p> <p>全國振興券 地ノ内聯合商會債券部</p> <p>東京市豊町區有樂町一丁目四番地</p> <p>電話本局四七一七 振替東京三三八五</p> | <p>小兒科(入院) 池上醫院</p> |  <p>くだりはらの 氣持よく止まる</p> <p>健胃固腸丸</p> <p>食傷 腹冷 時候あたりから起る 下痢と腹痛に第一等藥</p> <p>學價 貳圓 貳角 五角 壹圓 貳圓 五角</p> <p>本舖大阪谷田春堂</p> <p>島到る美濃藥店に販賣せらる</p> | <p>米國紐育スタンダードベイント會社製</p> <p>ラバロイド・ブルーフイング</p> <p>ノスファルトフェルト</p> <p>最上手製屋根葺用(見本送呈)</p> <p>京城本町二丁目電話長四五番(二七七四番)</p> <p>朝鮮總代理店 關針本藤次郎本店</p> <p>振替貯金口座京城二五六番</p> | <p>昔</p> <p>能く下りて通せんくし 効能で賣れる</p> <p>ひまをまじり</p> | <p>大日本大阪高津</p> <p>衛生局長伊やふ七本</p> | <p>内科 小兒科</p> <p>京城永樂町一丁目品南陳列館前)</p> | <p>村上病院</p> <p>院長 醫學士 村上龍藏 副院長 醫學士 松下三雄</p> |
|--|-----------------------|---|---|--|---------------------|---|---|---|---------------------------------|---|--|

支那統一の前途
(四)

南北兩派の衝突
復讐は、支那北方派の思想を代表するものに歴然し。若し強勁にして

の威信を中外に示すこと困難なるものあるに於てをや。是に由りて之を假れど、北方派の

那政局の變遷に對し、一隻眼を有する政治家たるしめば、北方派の重たる徐世昌、段祺瑞等と默契し、に進みて馮國璋との聯絡を鞏固し、社會黨の軍隊を網羅し、然る後、復路の決行を遂げし也。正しく、彼は復路の大事を執行せんといふに、徐段馮等と默契せず、鐵に斷行爲を謀る爲に、宣統帝を擁して天下に號せんことたり。宜なる哉。天下に彼ら輩の如きものあれば、吾人の理想とする民主的共和政治も、那統一の目的を達するに於て、茫洋の望みなき能はざるにあらずや。而して復路失敗後の形勢は一變して段祺瑞の中心とせる北方派と、孫文を中心とせる南方派との衝突と爲り、其の結果、南北分立の勢を驅惑せんとするの傾向あるにあらずや。吾人は支那統一の前途如何を察する毎に、彼ら輩て寒心に耐へざるものなくんばならざる也。

支那商工業の變遷(天)

二、きんかん今關天彰きんたい清代の工業こうぎょう(其二)

は、未だ豫測すること能はずと雖も、其の大總統の象たり徐たり馮たり張なり、張勳に代りて政治目標を掌握する可からず。段祺瑞は、北方派を率へて、再び國務總理の位置を占むる可からず。段祺瑞は、北方派を行し、北方派の勢力を扶植するにべし。

清朝の最も繁榮した時代は高宗の乾隆時代を推さねばならぬ。その間には聖祖康熙帝の大功業に續いて、世宗雍正帝を経て高宗に至り、高宗が文華の觀るべきものがあつた。その後、仁宗嘉慶帝となり、前代太平の餘烈を受け、工業界も非常な進歩の途程に入り、その最盛期に達した。

然れども、北京政局にして、果し
 北方派の掌握に歸し、段祺瑞、其
 實權を占むるに於ては、南方派は
 て之に服せざるべく、北方派に
 抗せんが爲め、長日以南に據りて、
 臨時政府を組織せんも、未だ測る可
 らず。蓋し北方派は共和政治に反
 するもの非ずと雖も、其の思想
 を君主主義に近く、國會萬能主義を
 拒し、南方派は、純手たる民主主義
 主張し、政黨内閣主義を唱道し、
 頭陀尾、相容れざるものあるを以
 ても、
 歩を見わたるそのゆるる程なり
 樂に取つて見やう。先づ禮節では
 銀の類が五つ、匏、陶、匱、土、匱
 金匱、銅匱。匱の類が一つ、象牙
 登の類が二つ、象牙、銅、象牙の類が
 二つ、象牙、銅、象牙の類が三つ、
 象牙、木簋に銅匱、象牙の類が三つ、
 象牙、木簋に銅匱、象牙の類が二つ、
 竹簋、木簋に銅匱、象牙の類が三つ、
 木豆、銅豆、匱の類が一つ、竹匱。
 匱の類が一つ、木匱。匱の類が二
 つ、匏、匱と銅匱である。樂器では、
 金匱で作つたものに銅、大きな銅

然らば則ち眼動退きて復昨を取
り出し、段々進みて責任内閣を組織
するとも、支那の政局は決して安定
を得ざるべし。之に反して、假
に南方派の首領孫文若しくは岑春煊
として責任内閣を組織せしむるも、
其の結果亦同一にして、北方派が舉
南方派に反對するは勿論。各省督
軍の北方派に屬するもの、容易に其
の主張と違ふやうなことを

編鐘十六枚を編んだものを一籠
す。方響、十六枚、銅で造る（金（即ち
も鑄銀（形は盆の如く、まはりには
木柁を用ゐ、中に孔があり、兩面
相擊つ）があり、外に大銅角、小銅
角、銅桴等がある。石で作つたもの
では特磬と編磬（特磬は一つ、編磬
は十六枚）土で作つたものは埙、苦
で作つたものでは建鼓大鼓（腹の中
に銅角を二枚、銅桴を二枚、銅角を

事、琵琶、三絃、月琴(即ち阮咸)二
 絃の外に、愛琴、胡琴、提琴等があ
 る。木で作つたものでは、見、故、
 津波器局、彌生館政局等であるが
 上の三局は鐵砲、大砲、砲凡、大
 砲、を製造し、下の一局は、軍艦製造

夏なつの金剛山きんがうざん 丸山 晚霞

(十三) 金剛山——この金剛山の遠望を、に描く常々の子が、ここに著くと、無念しく、角輪親奥田氏の好



聖澤堂

宣反いて、一尊た、阿日空山の血に於ゐる。前には静かなる湖、奥は金剛の萬千峯。
翠々、背後は雲霧やかなる丘があつて風俗總往の地である。

拍機あり、砲の屬は大笨、小笨あり
竹で作つたものは、排湯、竈、笛、
荻、葦、葦があるのかくの如く禮器、樂
器は、單純な製造物ではなく、陶土上、
木工、竹工の外に、玉工、金工、銅
工、

である。後日清の役となり、戦敗
結果、革新の念が勃興し、一轉し
稍權回收の運動となり、更に幾轉
て清朝の幕は袁世凱の手によつて
された(完)

工、石工、木工、結工等が錯雜して出来たものである。因て各工の退歩せねば状態が知られる。

道光二十年の鴉片戦役によつて、上海、寧波、福州、厦門、廣州の開港となり、次で長髮奴の亂となり、十五年の久しに遼東に蔓延し、十五年の久しに提鎮も焼かれ、蘇州の織物業者も十月に九月を失ふ。

早此様なつては多少は厭煩く事だ

美那子が大佛旅順へ落著いたことと同じ位の時刻に鈴富は警察の門を叩いた。警察の人々は流石の男も潜つた、警察の人は流石の男も潜つた、警察の人は流石の男も潜つた。

誰 (14)

布施生譯

様子を見てゐた一人の男、裾廣く髪
高く鼻高く、一文字口は何處となく
威の具はつゝのが、つか／＼と進寄

つて「もうよからう」と御止てくれた、之が有名な大探偵鏡子氏であつた、そうとは知らないが、鈴富は先刻から此男が何だか思案ありげに自分の力を熟々と顧る、其服と合ふ毎に何となく手帳になりやうな氣がして懐かしい思が湧いてゐた處であつたので、此一言には何とも言へぬ程嬉しさを感じた、取調がそれで済むと例の洗着いた様子で食事を取寄せて貰ひ、食せて仕舞ふと特に許可を

得て牽馬草さへ悠然と喫した、其う
馬車が来る、愈それに乗せられて
留置檻へ送られる事となつた、馬車
の内で鈴富は可笑しいな、今日位
草食をしたいと思つた事は無い。」と
呟いた。

監獄の門をぬ人つて夫々手鎖が漆
むと愈鈴富は第三號の獨房へ打込ま
れた、人目が無いので氣が緩んだの
か鈴富は此處で始めて籠を手に隠し
て泣いた、泣きむと檻に投込まれた
獅子のやうに格子に手を懸けて揺つ
ても見た、鈴富昌は元來外観のやう
に冷静な人間では無かつた、眞正は

感情に強い性質で、其情に稔洗者拂つて見ゆるのは蓋し普通ならぬ努力の結果であつた。彼は我當に志したそして十四で銀行に這入つた、銀行家となつて成熟するには、奮闘勉勵それに情に練されぬと云ふのが第一に必要な資格である。彼は努めて此様云ふ性質を仕上げやうと心懸けた。そして天性を抑へて結局尙餘で鐵血な人になりすました。先輩や後輩からは立身出世が眼に見えてゐるやうに持難された、彼の前途は事實洋々たるものであつた。

それが一朝にして此世である、一旦監獄へ入つたとなるとき、よしそれが無實の疑獄であつたにせよ、世間の信用はすつと落ちる、當分は世間に顔出しが出来ない、信用を復するのには少くとも四五かかゝる、粗世も随つてすんど後れる、過去十五年の大望は一時に踳いた、鈴置は彼や是やを思合せて結局其夜は泣明

女子の本分

▲料理の出来ぬは女一生の
 ▲禮法と知らぬは女一生の
 ▲一舉兩得の妙案 女子の本
 には、婦道を守り、家事に専らなるにあり
 の邊、生花、書算の如きは、趣味を向
 せしむるに必要なんも、近所に肝要な
 は、家庭料理を研究し、禮節作法を習得
 するにあり。女子にして此の心得なくば
 ▲漬物 漬物は日々の食料
 留置せるものと見は、毎袋十數
 を請送り
 ▲和洋菓子科 實用
 細な裁縫たる品物なる和洋兩

[illegible]

に東京、制憲講習會を設立し、同所
にて、料理、家庭の婦人へ、
習得するの便宜と與へ、實務的婦人の資
格に心を盡しつつあれば、今在に同會發
展の家庭料理講義の内容を紹介すべし

▲年中行事と料理 ▲端午の節

▲正月と追儺 ▲臘の節

▲七夕祭 ▲十五夜 ▲重陽の節

▲大祓

▲七五三

▲除夜の節

▲年中行事は趣
ある其の料理を
るに其の料理を

▲本誌義録の朱色

其の特色は、其の記事が、實情
ななり。同會には附屬の女子割
文禮館研究會あり、何れも
大家を聘して、其の講義實習さ
直ちに記事とするが本誌義録と全く
ば本誌義録と他の講義とを全く
なるは勿論、文章亦、總て優美

▲容服
▲飾
▲季節
▲無き
▲講義




てし、向
▲結婚式 ▲出世
▲誕生祝
▲通厝、喜の、米の祝
の、人一代の行事も、悉く詳細に説明
其の料理法も詳説あり。

日本料理科
▲各種會席料理、三洋八菜、二洋七菜、
一洋五菜、一洋三菜、
の日本固有の料理を始めとし
▲家趣向建築料理、即席料理、晚酌料理、
▲季節節の飲力、老人、小兒、病人の食物、
實益を越えたる驚る配膳頗る多し。

中にして、此の會の入會本にも
典あれば、入の最好機會なる
は、三月三、五、七、三月八、一、
四、九、十五、一、二、三、六、十、
▲入會の手續、極め
、さきに講義を述べた通り、
直ちに會員より送本、會費
地、郵便局より集金に行、故
の無し。

五大特典有り
入會

集



西洋料理科 ▲歐洲各國料理 ▲米國の料理 ▲正統な料理 ▲歐美的の成立 ▲日常料理 ▲パンの製法
▲咖啡と茶の入れ方にて西洋料理に關する事項は、詳細に説明あり。日本料理、和食作法の體と相括つて、本講義録の中心となる。



入
國家の
に對する
不祥事と
謂はるは
なほある
を恐る

家庭の煩
悩を減
らすに
爲すに
可なり

料理法
の
損
失

學工
業品

他化

SM

產國
其餘

精製
選時
計油

特製
塗料
防腐
防錆
黑色
防銹
アル
ミニ
ウム
パテ
ー
ー

漆
防腐
防銹
黑色
防銹
アル
ミニ
ウム
パテ
ー
ー

其他幾多の化學工業品製造

東京芝罘橋田町十七番地（五丁目）

新鴻化學工業所出

實戰の要求に
應ずるに
からし研究を急
ぎ

新鴻化學工業所

實戰の要求に
應ずるに
からし研究を急
ぎ

實戰の要求に
應ずるに
からし研究を急
ぎ

新鴻化學工業所

實戰の要求に
應ずるに
からし研究を急
ぎ

[illegible]

これの
の長所と
るもの
び一も

常に李

解する

何人にも

を以てせ

をなす

のた

本講義録

長

講

義

録

講

録

講

録

講

義

録

講

録

講

録

講

講

義

録

講

録

講

録

講

講

義

録

講

録

講

録

講

講

義

録

講

録

講

録

講

講

義

録

講

録

講

録

講

講

義

録

講

録

講

録

講

講

義

録

講

録

講

録

講

職員募

四月下旬開
大集會
の持
金買
六ヶ月一
り。
期に入て
込めば、
格にこの
何の手選
金の除
員募集

銷夏第一の一賣

| | | |
|-----------------------|------|--------------------------|
| 四角每冊五百餘頁 口繪二幅書畫八十圖 | 各三十銀 | 送料 一書六銀小魚牌二書八銀三書十二銀四書十六銀 |
|-----------------------|------|--------------------------|

| | |
|---|---|
| 鹽原多助 新刊 <small>小金井 區洲波</small> | 豐臣秀吉 新刊 <small>揚名倉 桃李流</small> |
|---|---|

編二十第 編一廿第

木下藤吉郎由井正雪加藤清正
赤穂義士 大久保彦左衛門 水戸黃門漫遊記
岩野見武勇 紀伊國風土文書 自來也
被野見武勇 紀伊國風土文書 石川五右衛門
伊達騷動 荒木又右衛門 園定忠次

町本

東京博文館

物言

| | | |
|-------------|--------------|---------------|
| 文佐 倉泉五郎助 | 村天 井長庵 | 佐怪 賀壯丹權様 |
| 相馬誠忠録 | 羽柴筑前守 | 權隨院長兵衛 |
| 天下茶屋 | 三十一 山中鹿之助 | 二一 豪僧休文禪覺師 |

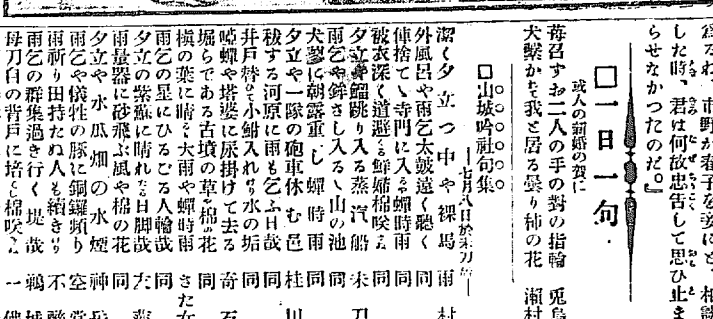
松田竹の島人作

「遂に政治の時代もあつたけれど、今では眞面目に爲つてゐるから、噂を聞くのは實際厭やでねわい」

「其處こそ言はないでまあ聞き給へ……」

「彼の噂い市野が什麼したんだらうね」

「君は好に加減なことを言つて」



置く位の事は誰も致しますが病氣其の他臨時の物入りの爲つて還ひ込み勝なのは別味を多く持つ宴籌辦給者の當てす立派な商人が金利を見る爲學校組合費を延納する様な卑しいのとは譯が迷ひます貧書生さんごやらあなた御兩親は玄句の各め立てなさる爲學費をあなたにお送りですか(交換手)▲オット其の啜咽私が賢ひませう理屈の良否は知らねえが商が爲徳の失策に日本人や大和民族がかゝり合ひになつてたまはるの自分其の將兄同志の奮起なんてけなな事言ふもんでね弱いものいちめも程があらー一體、ハイカラの旦那西洋人の手前耻かしいなんて其んな見つともない面は日本人にやねー筈だエ

市野は、石島先生の愛嬢京子さんを妻に爲てゐるぢやないか、然うすると若は、京子さんのことを思はなないで、市野へ妾の周旋を爲たことに

▲子供と科學(七月號) (十餘東京市有用大
 原同一社)
 ▲婦人週報(三〇二七) (四餘五層東京牛込
 市々谷町二の一七其社)
 ▲葉界新報(七月號) (二十餘東京牛込下宮
 比町六其社)



懸賞尋人

一、七里幸
 明治二十九年
 同應御用受負
 同年十月八日
 其後の消息不
 々々々
 右本人の現住
 又死亡年月日
 其連搜索上の
 知せられたる
 期限大正
 通知先は大坂

明治十二年十一月生
 大阪府平民
 特徴
 九月以降十月五日頃迄釜中縣土木課臨時
 人岐阜縣生池本(釜政街梅月樓主人)の
 頃南投應下埔里社に向つて出發したり
 明

所を突留報知せられたる方には金
 及其場所を的確に通知せられたる方には
 便宜(例へば當時同人と同居せる者のほ
 方へは金十圓を呈す
 六年九月三十日限
 市南區天王寺松ヶ崎町五四七三番

登山に第
 水となりて濁た

以目王大なる方
 眉濃き方
 前佛人見習となりしことあり
 戒に係る佛人

十圓を呈す
 は百圓を呈す

通知又は其後の消息を的確に通



安藤 外宛

6-23

丹士博學 閣 郎
 閣士博學 郎 長師校

大
 安藤 外宛
 電話 〇三
 金成 〇三
 金成 〇三
 金成 〇三

食の時間



これは
是が！
胃病の薬では
是が一番よく
きゝます試あれ

[illegible]



 居及特約店にあり



 星製薬株式會社

 東京府南池袋三丁目三番地

 電話一七五〇・一七五二

 定價

 一五廿十

 圓錢錢銀

實に妙なところで、偶然彼れに逢ふたからさ。」

「妙なところッて、何處だ君。」

見は、遂引き込まれて訳き出し、

田淵は、吸ひかけの巻煙草の左縁の取れた角火鉢に、指先で叩いて、

「市野が、鎌倉の山の内といふろで、別荘を買つたんだよ。」

「市野位に爲れば、最う別荘位に爲らうがね。」

「ところがね、先の持主時代居付きの庭掃除の老爺がゐるんだね、其老爺が彼の春子の親父だよ。」

「そりや頗る妙だ。宛てて小説もありさうだね。」

「春子は赤阪から横濱へ歸替へし思ふやうに往かなかつたこで、」

正つ　僕を欺すんだらう。
 信　市野誠信の謙直なのを知つてゐる
 早見は、容易に信することではな
 った。
 成を　「欺すなんて其様ことがある
 か。」
 こ　「實に驚くね。」
 こ　「所謂戀は癖物だからね。」
 持　「彼の堅い市野のことだから、什
 しても最良と思はれないね。」
 持　「早見は半信半疑である。」
 持　「家の仙人だつて、婦人の爲めに
 通力を失つたぢやないか、兎んや
 野をや。」
 持　「幾ら市野が堅いからと
 ふて、尙且人間だからね。」
 持　「それなら什麼した君。」
 持　「其處莫過氣たことの、相識相手
 爲るでもないと思つたから、好い
 減に爲さかうと思つたが、市野の
 更　たが

雨乞の農産に風もなかり。无
蟬時雨幾度か、打つ燈石同

新刊紹介

女と男 前判發 谷本博子氏の女を喜ばせたる法石丸君等の男女を喜ばせる法 河野博士
説き放談 著者の男は江ノ島の可憐なる可愛
い女子の女記者志願の血脈流すところ
江ノ島の人々記者志願の記述及び物語
に小説 落無其他（十五歳大阪北區山田
四九四番）

青年雄辯 夏休みの課題變 學生は夏休
を如何に利用すべきか、各大學學校より父兄
青年の爲に出版、都下大學校より父兄
學生に、文士の對策法なる四題にてける
もの讀むに餘蘊なくして尚ほ
推しの邊り其の快速生活に勵め、東京雄辯
の努力と勉め其の救む（二十歳東京都心込
近町一其台）

近代藝術最近獨逸文學 本報には
エーデルマンの譯作目録として就た數氏の
想論を推薦せる外代非其絶倫の藝文獨逸
想論歐羅巴露英の現代非其絶倫の藝文獨逸
間共詩歌一の範圍に於ける其體心三の意
其詩歌一編、雄辯體をも收む（十二歳東
京市大崎路七二八其社）

東方時鐘（七月號）不徹底の外支調査
（中野正剛編輯）が復習する大分貧困裏附の將
た強勁筆底に敵手を得ず、貧乏貧窮裏附の將
（木村實太郎、伊藤孝次郎、佐部研究、短文字）
十餘年以來、西國文學、二十五年出

「コ人を笑はかしやがる（文身男）」
貧苦生君に告ぐ日給五十錢生の提督が
に對する足下の愚論、暴論には驚い
たる哉、兒童教育と學徒教育、初等教
諭の如き全然フソ提督の主意を看破
し得ないもので余は提督すべき日本
の貧苦生中にこんな男の存在を足下
にみるを悲む、五十錢位の月謝は月
初に用意して置くがよいとは何たる
暴君、彼等學堂の父兄には其の日の
生命をつたり食費にすら窮して居る
ものがあるのだ、どうして月謝如き
距離あるもの迄に手がごくく、否、
人間である以上は貧しき彼等が足下
等の如き男共の罵詈謗を忍んで
其子弟を就學せしむる偉大なる國家
の精神、人間精神に對して灌腔の
敬意と同情とを表すべきである、か

“PINE”

是れ！是れ最高能
パイン萬年筆を

● 附言パイン萬年筆は自然の
完全なる設備と老練の技術とを
● 大日本政府登録 米國製正十四

A black and white illustration showing a stylized pine tree on the left and a building with a flag on the right, set against a background of horizontal lines. The pine tree is tall and slender, with a small flag at its top. The building is a simple structure with a flag flying from a pole on its roof. The background consists of a series of horizontal lines, creating a textured effect.

糧となりて飢へ
 血となりて凍へ

森
 永
 キル
 ヤ

託率を有し眞に理想
 と直ぐ御買ひなさい
 金「イリジウム」付ペン（責任保障）

破損又不具合の節は満
 一年間交換又
 京城旭町二

[illegible]

仁川代理店
野口 國會
本明四丁目電話一七三番

元山代理店
山口 國會
本町二丁目電話一七三番

河村 國會
本町二丁目電話一七三番

船山出帆廣告

大坂行
八月廿三日午後五時出帆
浦城行
八月廿二日午後四時出帆
新滿行
八月廿一日午後四時出帆
神戶行
八月廿一日午後六時出帆
大坂行
八月廿一日午後六時出帆

波共同汽船出帆

大連行
七月十九日午前十時出帆
共同丸
七月十九日午前十時出帆
共同丸
七月十九日午前十時出帆
共同丸
七月十九日午前十時出帆
共同丸
七月十九日午前十時出帆

天眞丸 每月二日廿九日十四日廿六日
每二日廿九日十四日廿六日

大連行
七月十九日午前十時出帆
共同丸
七月十九日午前十時出帆
共同丸
七月十九日午前十時出帆
共同丸
七月十九日午前十時出帆
共同丸
七月十九日午前十時出帆

天眞丸 每月二日廿九日十四日廿六日
每二日廿九日十四日廿六日

[illegible]

日本郵船公司出帆

六日正午出帆
七月廿六日正午出帆
八月廿六日正午出帆

大連行 太清(天津)牛莊行

泉金泉間自動車時間


上り 一階 二階 三階 四階 五階 六階 七階 八階 九階 十階

大塚農場自動車所
大塚出張部

邱浦頂間自動車時間

上り 一階 二階 三階 四階 五階 六階 七階 八階 九階 十階

大塚農場自動車所
大塚出張部



[illegible][illegible][illegible]